

静岡「エバーグリーン藤枝」結成20年

高校生ら平和発信

「私たち高校生が風化させないよう広めていく必要を感じた」。米国のビキニ水爆実験で被災した第五福竜丸の母港だった静岡県焼津市近隣で活動する「エバーグリーン藤枝」が結成20年を迎え、講演会を開催。高校生が「平和のために何かできるのか」を考え合いました。

(静岡県・内田伸治)

クローズアップ



市田さん(左から4人目)とトークセッション

ビキニ水爆 “私たちが風化させない”

エバーグリーンは2003年に「平和をつくるために地元で何かできないか」と高校生、若者、教員、市民が実行委員会を結成。毎年、写真展や映画会、講演会を開き、11年からは高知県「幡多高校生ゼミナール」と交流し、第五福竜丸元乗組員の故見崎進さん、故池田正穂さんの話を聞き取りました。

市田さんは、第五福竜丸の足跡をたどり、ほかに多くの日本漁船、ロンゲラップ島民が被災し苦しんだことを説明。沈黙を続けてきた元乗組員の故大石又七さんが「何も言えずに死んでいった仲間たちのために」と700回以上も講演したことを話し、「私にできることは忘れないこと。語り継いでいきたい」と宣言。「第五福竜丸は核のない未来に向かい航海中です。みなさんも一緒に航海しましょう」と訴えました。

将来の進路に迷う若者へのアドバイスで、市田さんは、「第五福竜丸と大石さんに会ったことから、一度諦めた研究者と同じ仕事を、今実質的にやっている。自分のやりたいことは焦らず大事にしてほしい」と呼びかけました。

高校生による、第五福竜丸の無線長・久保山愛吉さん、妻のすずさんらの物語を描いた絵本「ばらの祈り 死の灰を越えて」の朗読劇やバンド演奏も行われました。

第五福竜丸の足跡

トークセッション

今年も、市田真理・第五福竜丸展示館学芸員を迎えた講演会を12日に藤枝市で行い、106人が参加(うち高校生24人)しました。

来年3月末に焼津市で開催される全国高校生平和集会のプレ企画でもあり、市田さんは「大石さんの晩年にずっと

そのあと高校1・2年生が市田さんを囲みトークセッション。

「平和の話という暗く、重く、切なく、来たるべき世代から後ろ指をさされたい生き方をしていきたい」と話します。

実行委員長の岡崎航平さん(29)は、「僕は高校時代からずっとエバーグリーンで活動してきました。未来

核兵器あるのは怖い

トークセッションに参加した高校生たちに感想を聞きました。

大塚洋輔さん「平和について考えさせられた。今も核実験がおこなわれ、核兵器があるのは怖い。当時の二の舞いになってしまふことはやめてほしい」

武井章馬さん「久保山さんの残した

「してほしい」は改めてすごいと思っ

た。平和が大事だと身に染みました」

片岡歩さん「第五福竜丸のほかに多くの被害があったのを初めて知り驚いた。平和が生きる上で大切だとわかった」

中西希さん「普通の生活で体験できない話を聞き、生きていくうえで、すごい経験になった」

横山陽哉さん「平和という抽象的なことをどう伝えるか、平和とはなんな

参加者の感想